

図 8. 1 荒川【水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況】

表 8. 1 近年の水質の状況 (1)

近年の水質状況(荒川)(1)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/L)					pH			DO(mg/L)				SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)				
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	
河川	荒川上流(1)	AA	中津川合流点前	H15	< 0.5	1.0	0.6	< 0.5	1	7.5	8.1	6.5~8.5	8.8	13.0	11.0	7.5	< 1	5	1	25	33	13,000	3,200	50	
				H16	< 0.5	1.3	0.6	< 0.5		7.3	8.3		8.9	13.0	11.0		< 1	4	2		79	3,300	1,200		
				H17	< 0.5	0.8	0.5	0.5		7.8	8.2		8.5	13.0	11.0		< 1	3	1		33	3,500	1,100		
	荒川上流(2)	AA	親鼻橋	H15	< 0.5	1.4	0.8	1.0	1	7.4	8.5	6.5~8.5	8.5	14.0	10.0	7.5	< 1	12	3	25	450	54,000	19,000	50	
				H16	< 0.5	1.7	0.7	0.6		7.0	9.3		8.9	14.0	11.0		< 1	2	1		2,300	92,000	21,000		
				H17	< 0.5	1.9	0.8	0.8		8.0	8.8		8.1	17.0	12.0		< 1	17	3		490	170,000	43,000		
		正喜橋	H15	< 0.5	2.0	0.8	0.8		7.9	8.7		8.4	13.0	10.0		< 1	3	1		4,900	130,000	33,000			
			H16	< 0.5	1.3	0.6	< 0.5		7.4	8.5		6.3	13.0	10.0		< 1	5	2		780	35,000	7,300			
			H17	< 0.5	1.5	0.7	0.6		7.7	8.6		7.9	13.0	10.0		< 1	7	2		450	54,000	8,300			
	荒川中流	B	久下橋	H15	0.5	2.2	1.1	1.4	3	7.5	8.9	6.5~8.5	5.7	14.0	9.8	5	< 1	8	3	25	2,300	92,000	21,000	5,000	
				H16	< 0.5	2.3	0.9	0.9		7.1	8.8		5.5	13.0	9.3		< 1	11	3		780	540,000	51,000		
				H17	< 0.5	2.1	1.1	1.4		7.4	9.2		6.9	14.0	9.8		< 1	10	4		1,100	24,000	6,100		
			開平橋	H15	< 0.5	3.0	1.3	1.5		7.5	7.7		7.3	12.0	9.9		4	79	21		7,000	490,000	74,000		
				H16	< 0.5	1.5	0.9	1.1		7.5	8.2		7.4	14.0	10.0		4	21	11		790	54,000	15,000		
				H17	< 0.5	2.5	1.3	1.5		7.3	7.9		7.9	12.0	9.8		4	38	13		1,700	92,000	24,000		
		治水橋	H15	0.6	2.7	1.4	1.5		7.5	7.8		7.3	11.0	9.6		3	31	7		7,000	540,000	83,000			
			H16	< 0.5	1.4	1.0	1.3		7.4	8.6		7.0	13.0	9.9		2	14	7		3,100	54,000	17,000			
			H17	0.6	2.8	1.2	1.4		7.3	7.8		7.2	13.0	9.7		2	22	9		4,900	79,000	25,000			
	荒川下流	(1)	C	笹目橋	H15	1.9	5.8	3.5	4.3	5	7.1	7.8	6.0~8.5	5.8	12.0	8.6	5	5	110	12	50	790	49,000	17,000	-
					H16	1.9	7.9	4.1	4.3		7.3	8.3		5.6	11.0	8.7		2	24	11		490	170,000	34,000	
					H17	1.7	5.6	3.8	4.9		7.3	7.6		6.1	12.0	8.9		4	18	9		130	13,000	4,100	
(2)		堀切橋	H15	1.2	4.2	2.7	3.4		7.1	7.5		4.4	8.6	6.4		3	46	17		1,100	170,000	27,000			
			H16	0.6	3.7	2.4	3.1		7.1	8.2		3.7	9.4	6.2		4	59	17		790	49,000	13,000			
			H17	1.2	5.2	2.4	2.6		7.2	7.5		3.3	10.0	5.9		8	57	17		490	17,000	4,800			
(2)		葛西橋	H15	0.8	2.8	1.7	2.2		7.2	8.1		4.7	9.4	6.9		8	25	15		79	330,000	30,000			
			H16	0.9	2.3	1.5	1.6		7.4	8.4		4.1	10.0	6.9		4	52	14		33	79,000	11,000			
			H17	0.7	2.6	1.8	2.1		7.3	8.1		3.9	9.5	6.5		8	48	19		33	4,900	2,300			

表 8. 1 近年の水質の状況 (2)

近年の水質状況(荒川)(2)

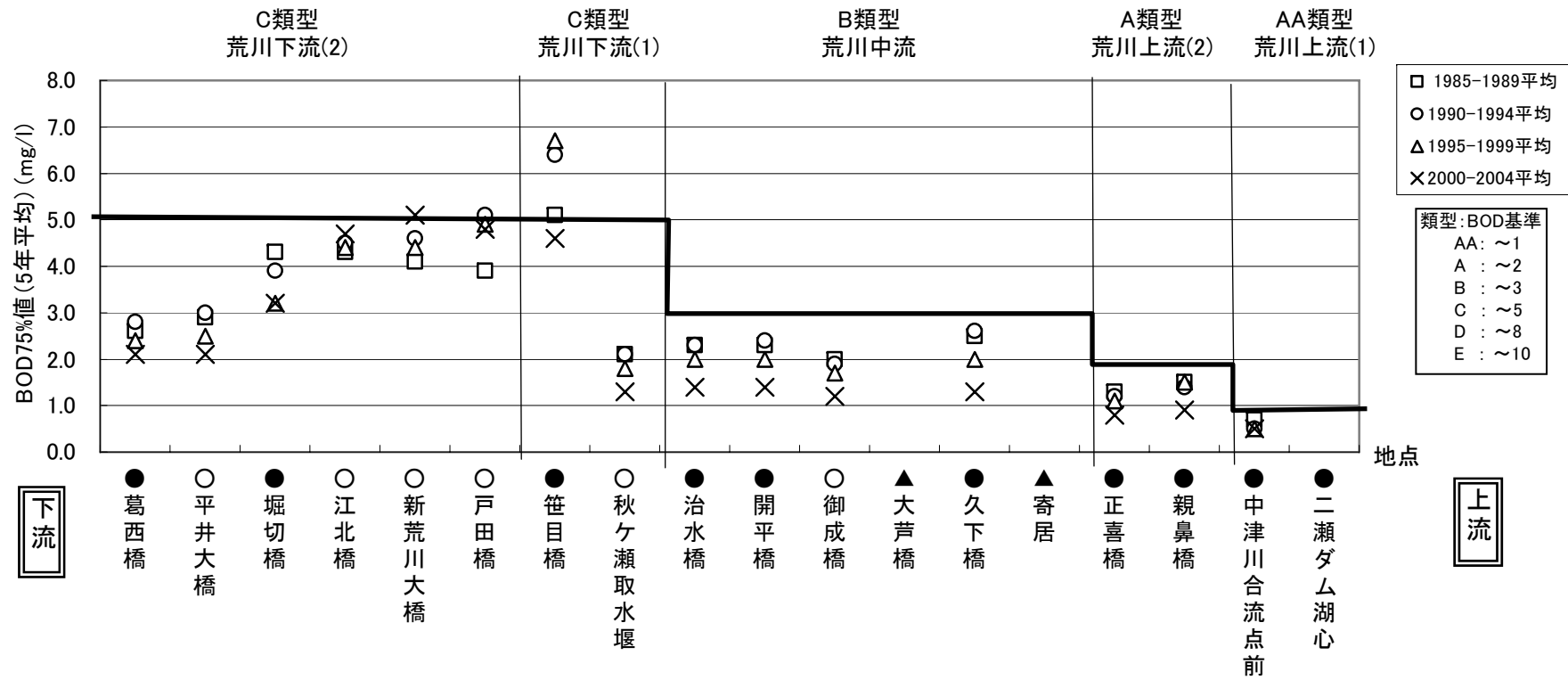
対象	水域	類型 COD・NP	環境基準点	年度	COD(mg/L)					pH			DO(mg/L)				SS(mg/L)				大腸菌群数(MPN/100mL)			
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
湖沼	二瀬ダム貯水池	A・Ⅲ	湖心	H15	1.2	2.8	1.7	1.9	3	7.0	9.6	6.5~8.5	2.1	13.0	9.9	7.5	< 1	5	2	5	17	35,000	4,300	1,000
				H16	1.2	2.1	1.6	1.8		6.8	8.4		7.8	11.0	9.7		< 1	4	1		45	9,200	1,400	
				H17	0.8	2.7	1.9	2.3		7.5	8.8		8.8	12.0	9.8		< 1	4	2		11	5,400	900	
	水域名称	類型 COD・NP	環境基準点	年度	全窒素(mg/L)					全りん(mg/L)														
	二瀬ダム貯水池	A・Ⅲ	湖心	H15	0.33	0.74	0.54	-	0.007	0.023	0.014	0.03												
				H16	0.49	0.70	0.54		0.005	0.026	0.013													
				H17	0.47	0.93	0.58		0.006	0.039	0.013													

出典: 公共用水域の水質測定結果

©公共用水域の水質測定結果(平成15~17年度)

湖沼NP類型: 全窒素の項目の基準値は除く。

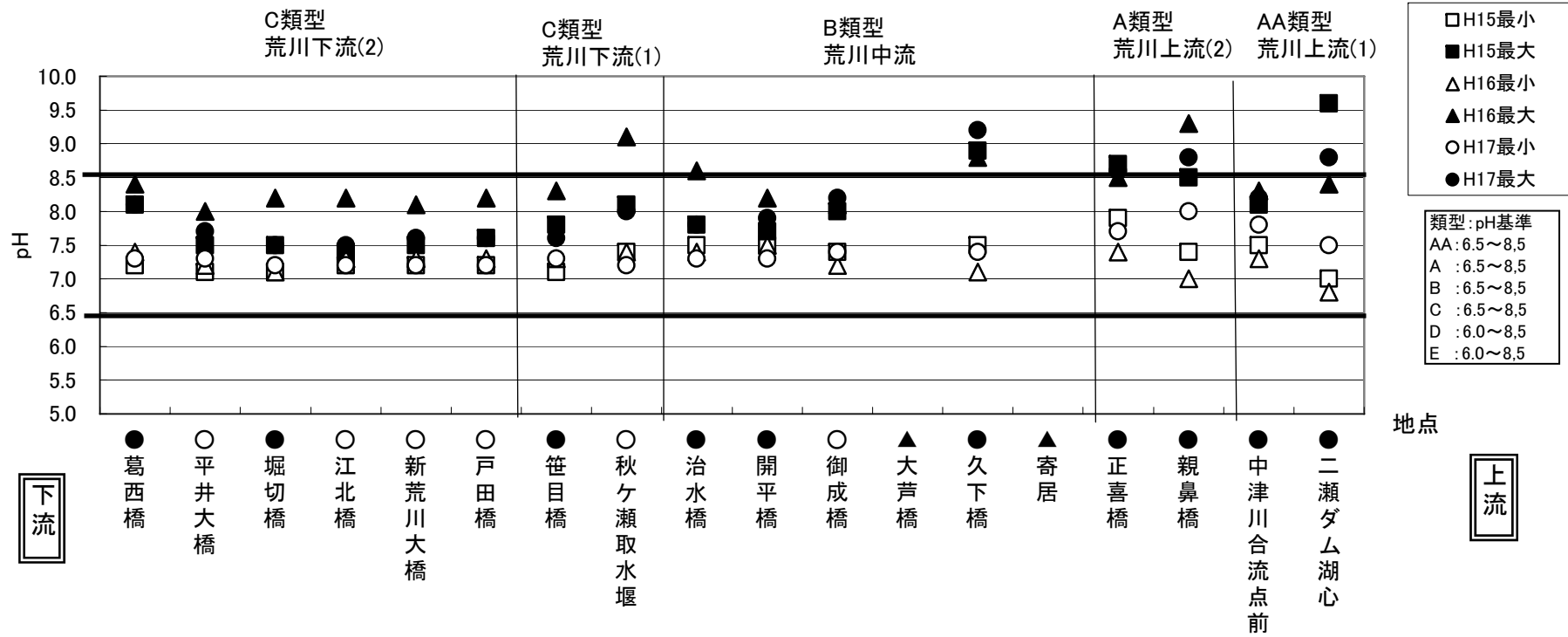
水質汚濁防止法の規定に基づき、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って、都道府県・水質汚濁防止法政令市のほか、一級河川のうち国の直轄管理区間については国土交通省地方整備局によって実施される。原則、河川は表層(水深の2割程度)、湖沼は表層(成層期には成層を配慮)、海域は表層・中層(必要に応じて下層)の測定結果である。



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

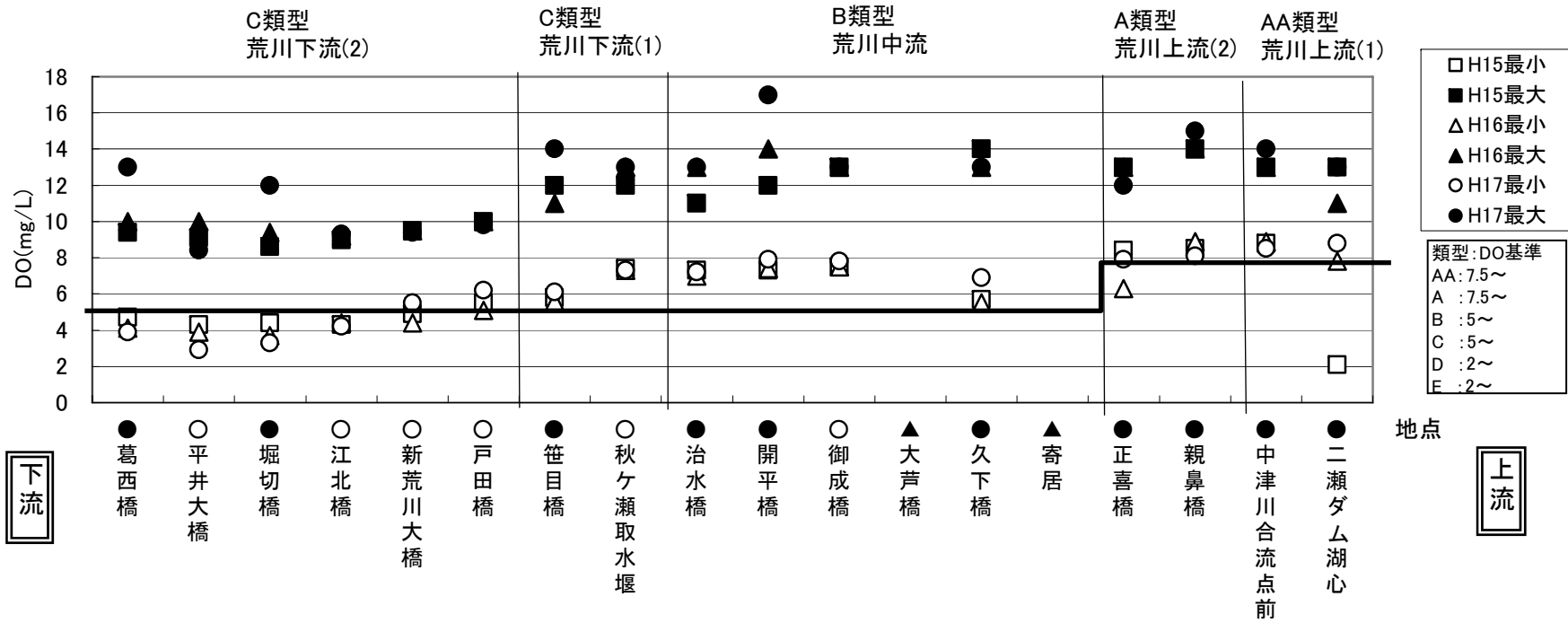
図8. 2 BOD75%値の水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典：公共用水域の水質測定結果

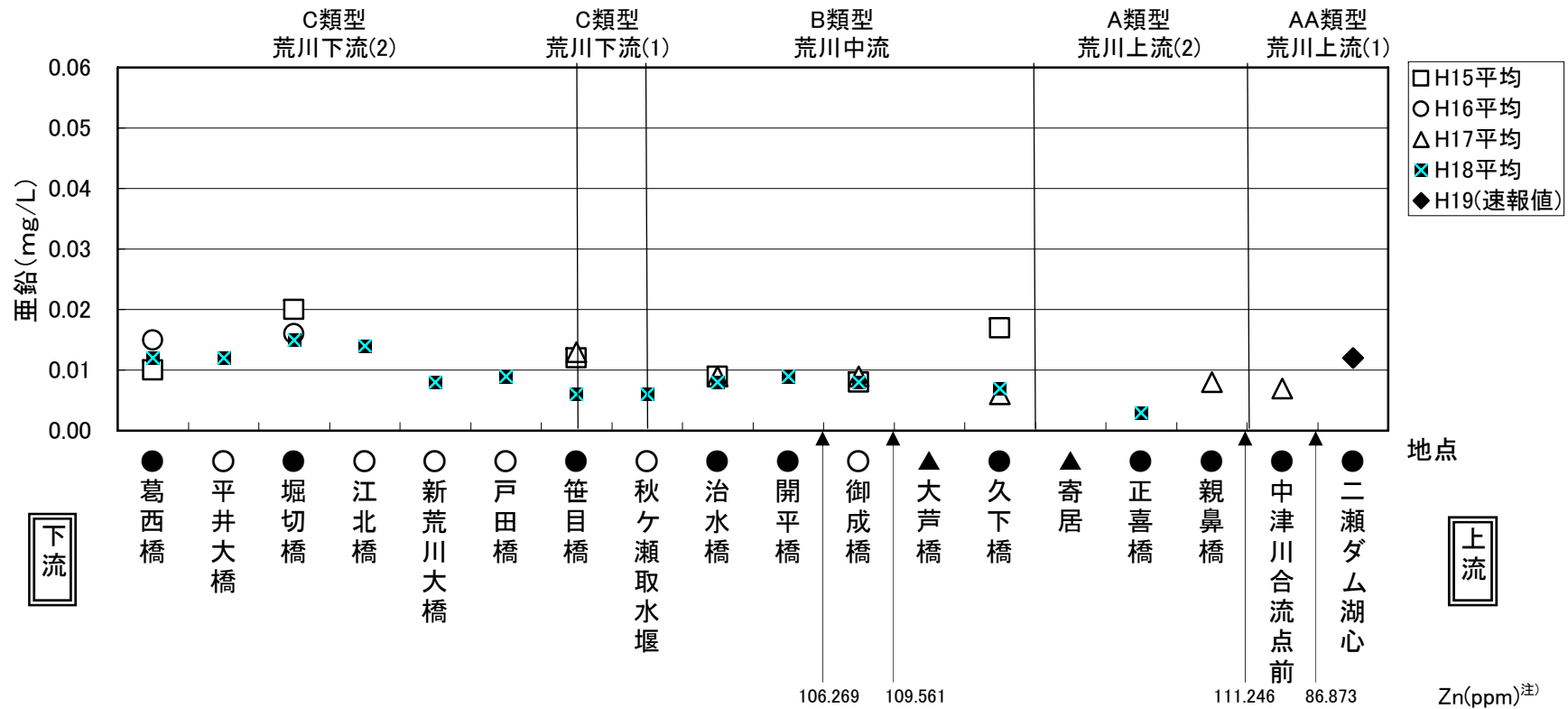
図 8. 3 pH の水質縦断分布



地点: 環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

出典: 公共用水域の水質測定結果

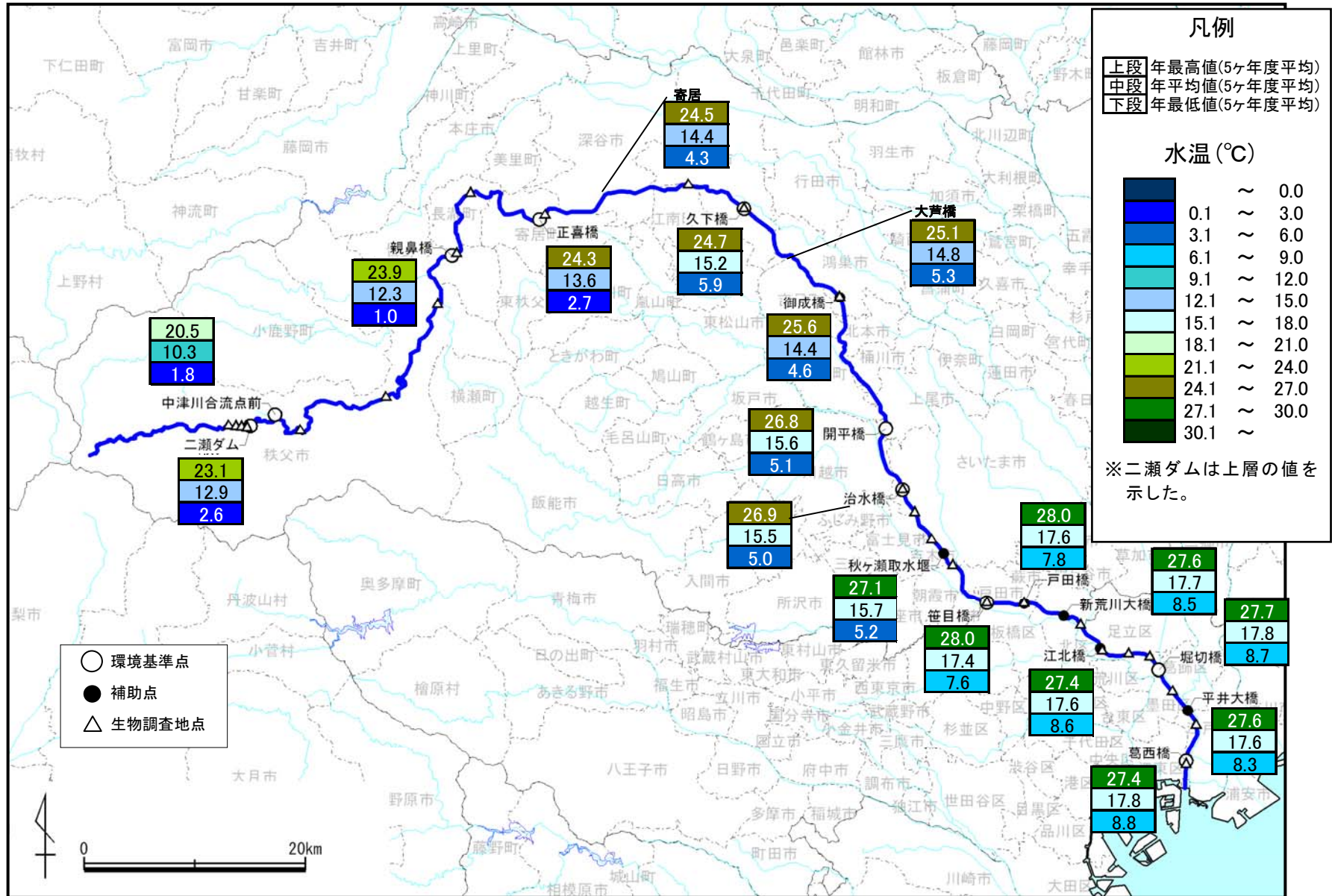
図8.4 DOの水質縦断分布



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)
 ※年度平均値が<0.01、<0.03(定量下限値未滿)の地点については、0.01及び0.03とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05の地点のデータは除外した。
 ※二瀬ダム湖心の値は、H20年2月の速報値である。
 注)地球化学図による底質の亜鉛濃度

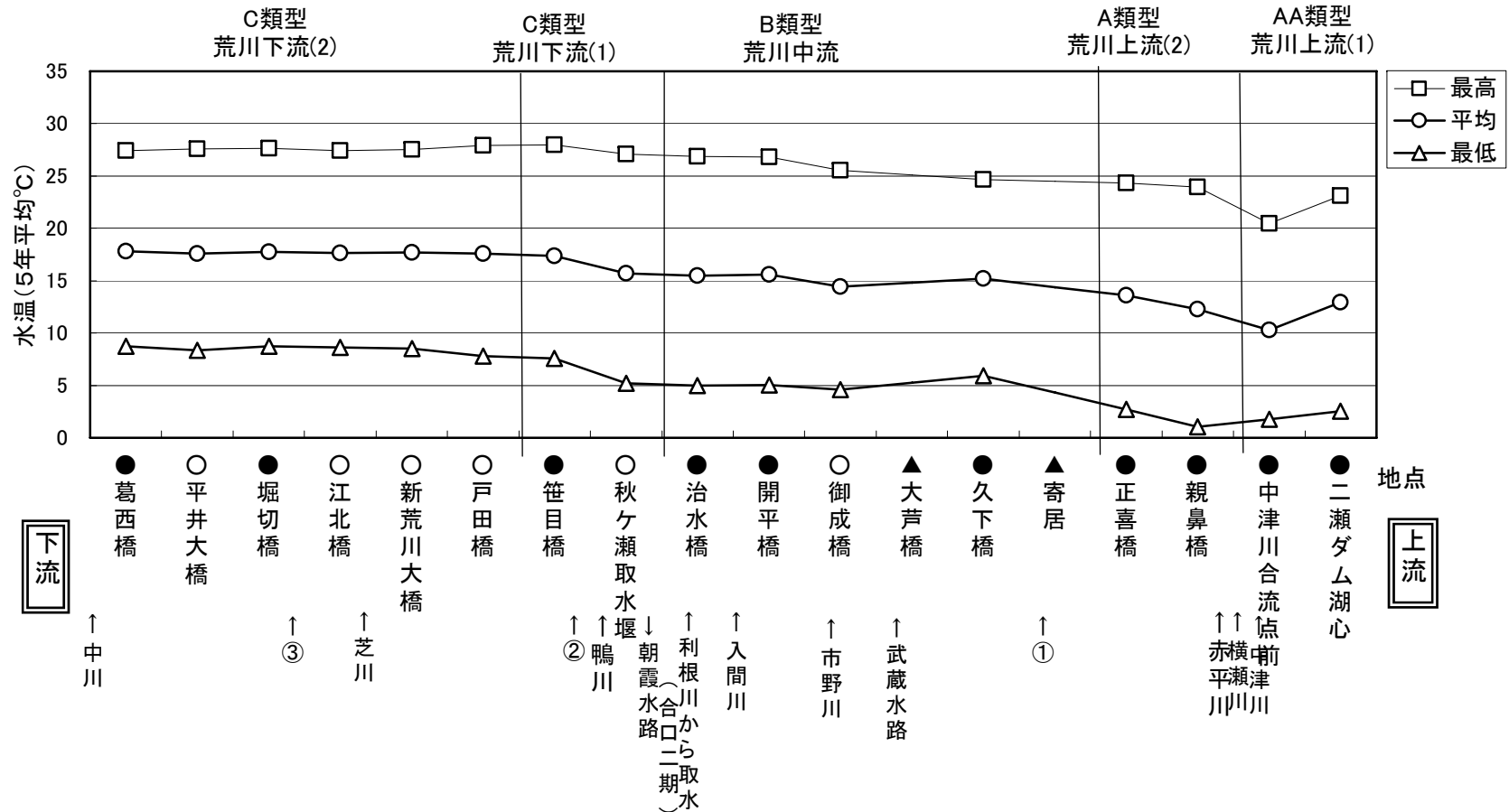
出典：公共用水域の水質測定結果

図8. 5 亜鉛の水質縦断分布



出典：公共用水域の水質測定結果

図8.6 荒川【水温】



出典:平成16年度版下水道統計(行政編)

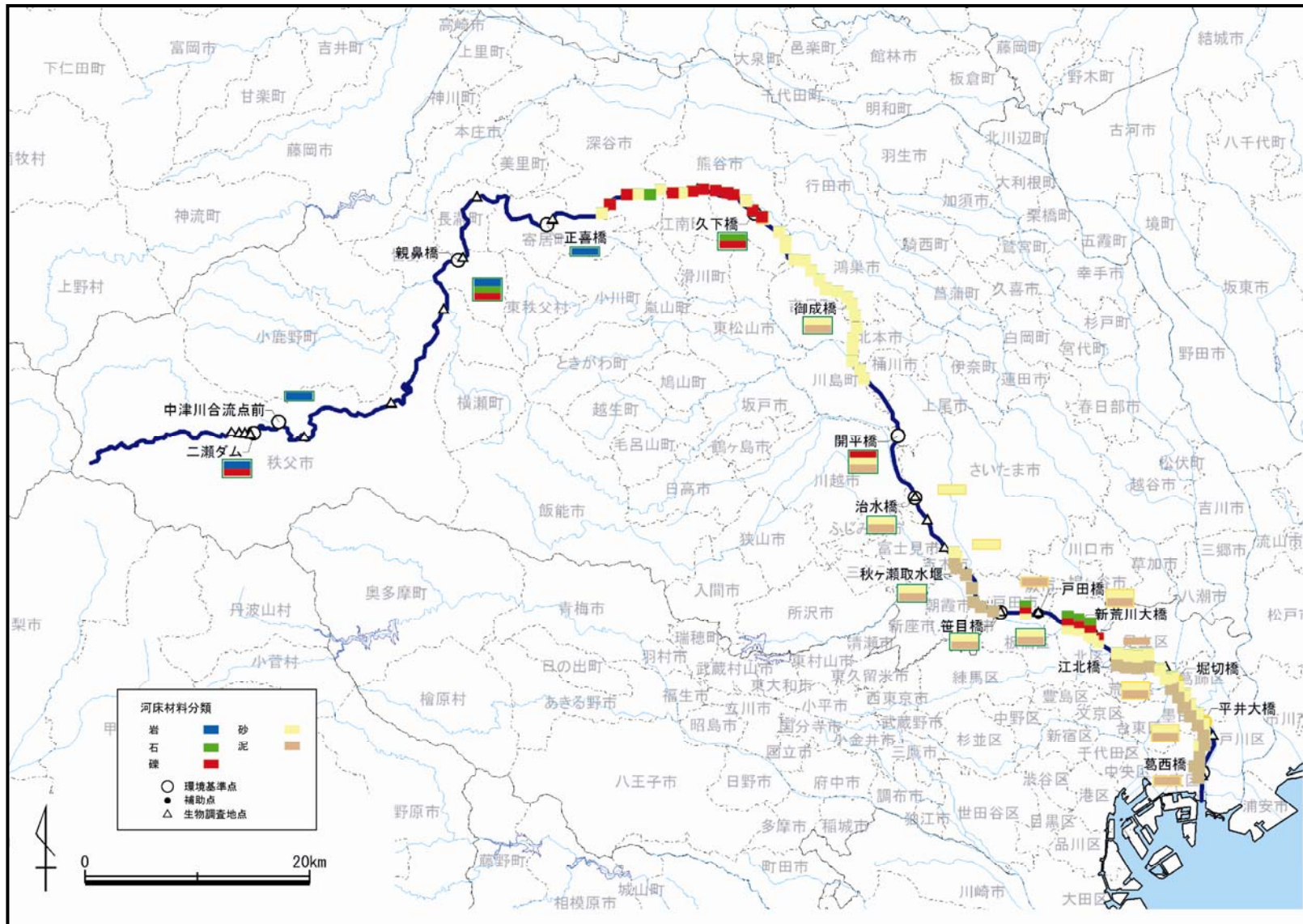
※最高・平均・最低は、平成12～16年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において、月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5か年でそれぞれ平均した値である。一部で月1回以上の頻度で計測していない地点がある。

地点:環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

※ダム湖の水温は表層データを示した。

出典：公共用水域の水質測定結果

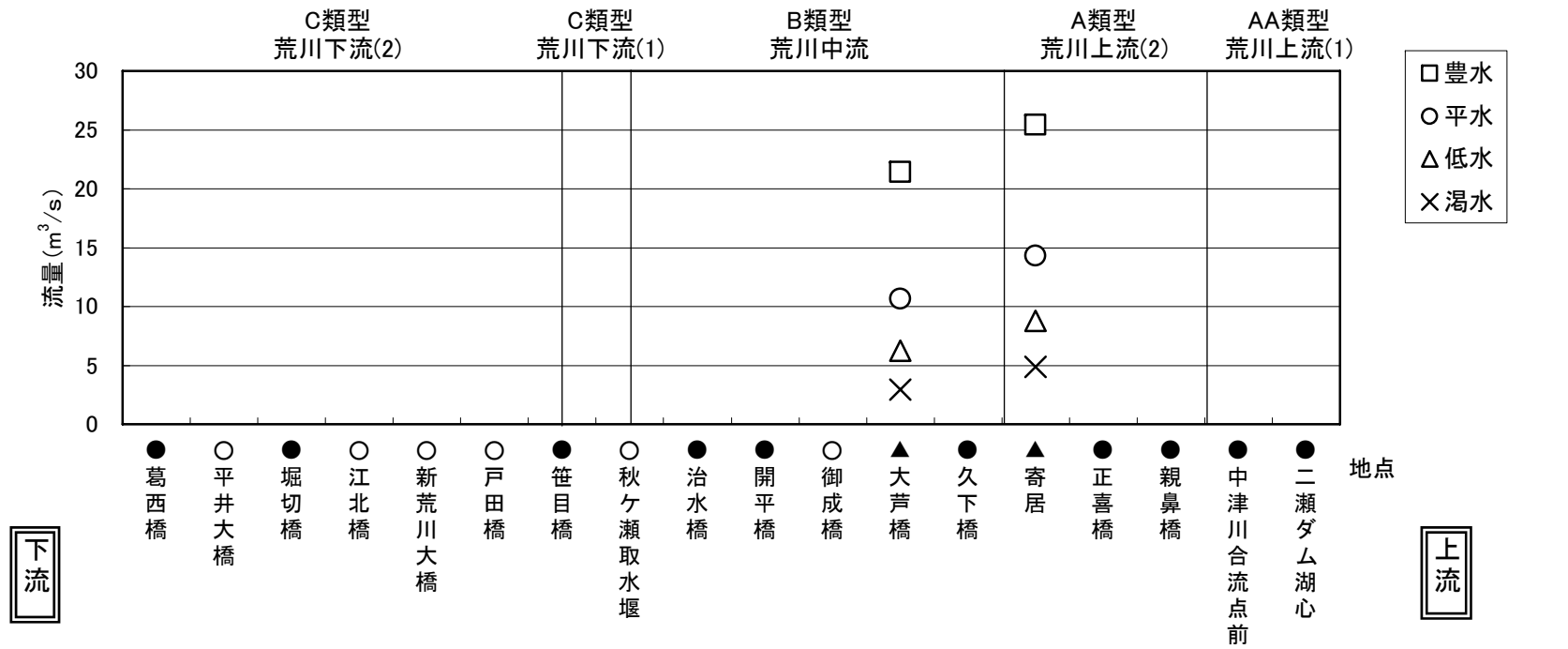
図8. 7 水温の水質縦断分布



出典：関東地方建設局「平成 8 年度 荒川水系(荒川本川)河川調査報告書」、「平成 15 年度 荒川水系(荒川)河川調査報告書」

■ は、平成 14 年度「漁協アンケート」、■ は「河川水辺の国勢調査 2004」より

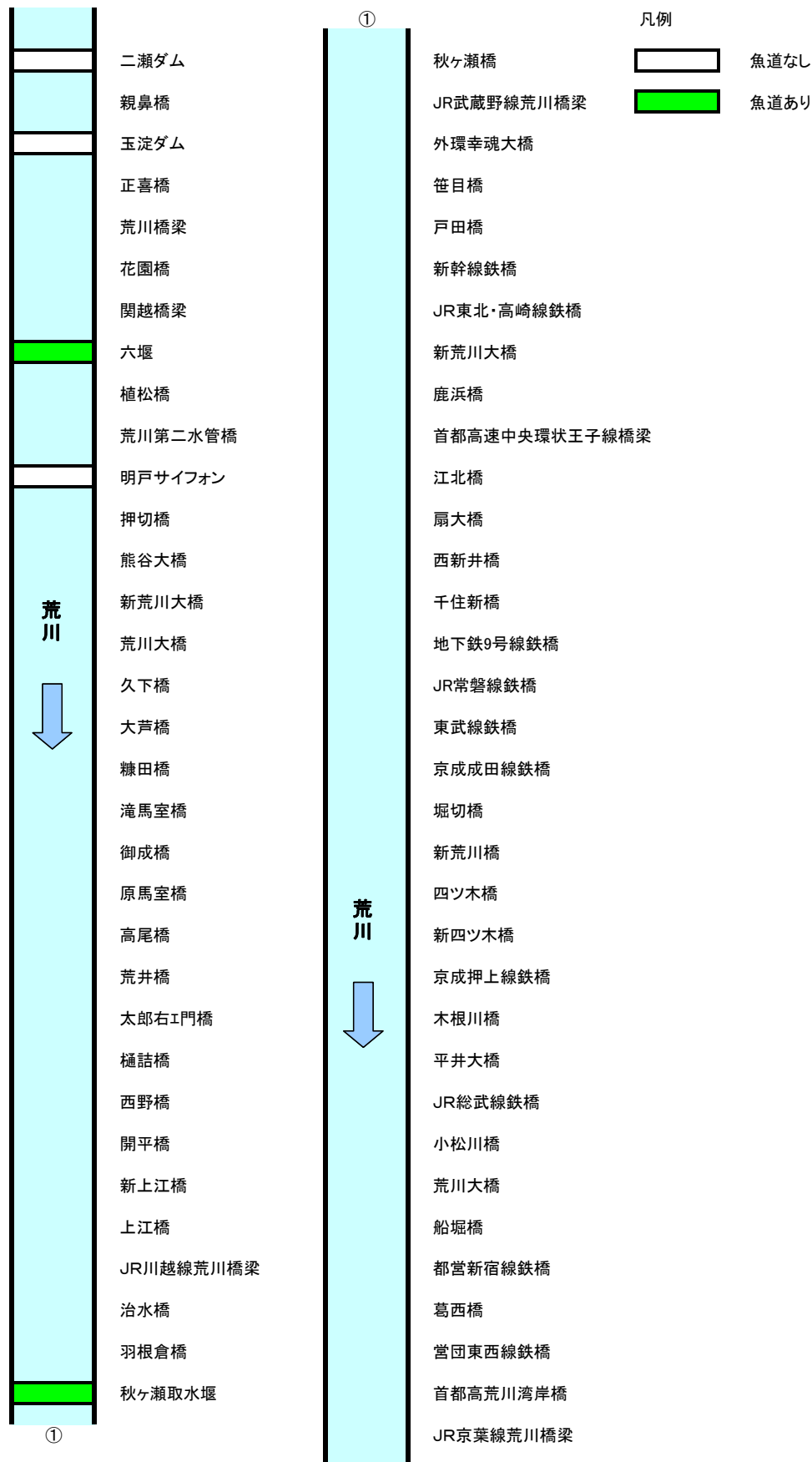
図 8. 8 荒川【河床材料】



地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

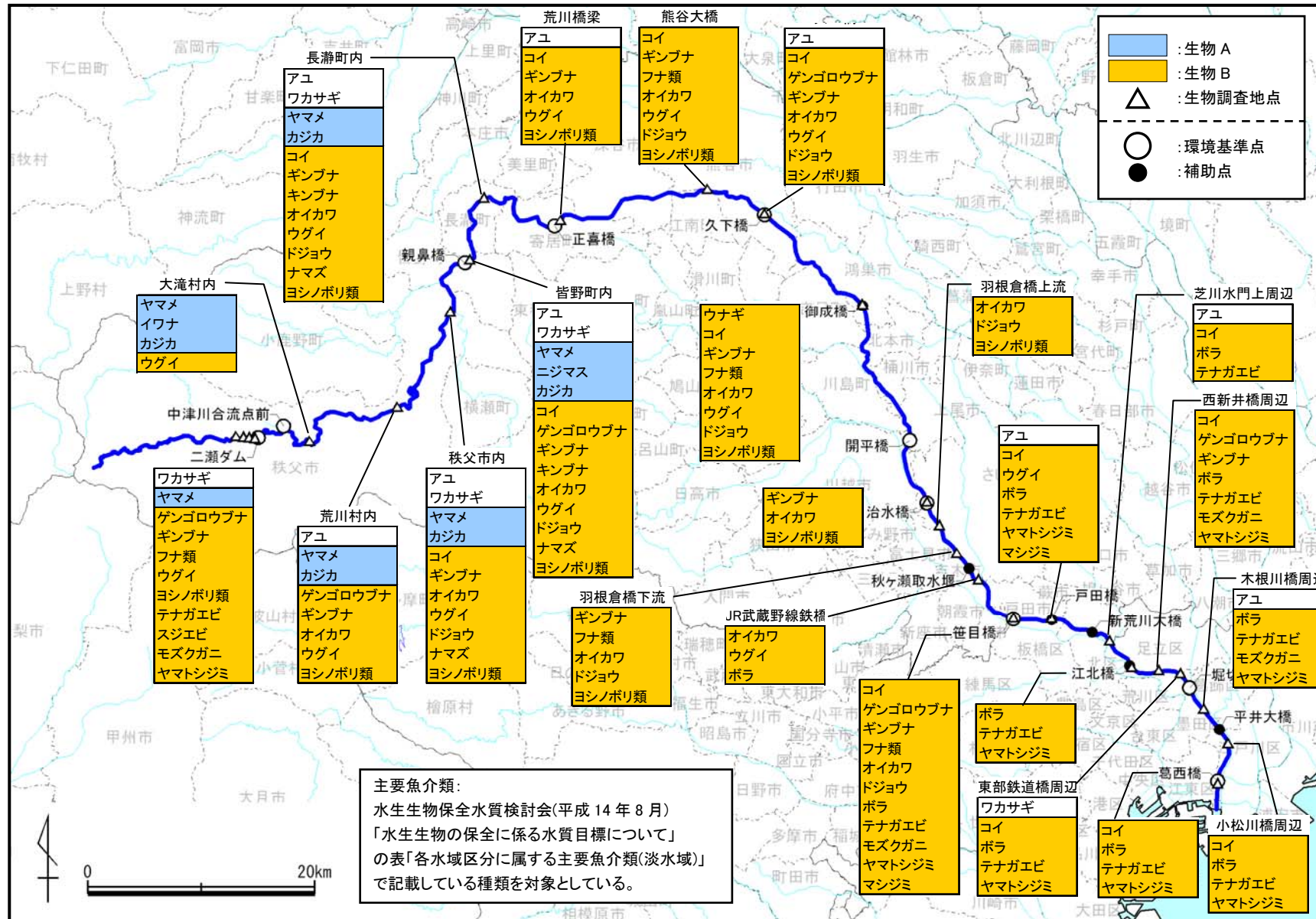
出典：流量年表（国土交通省河川局編,H14）

図8.9 流量の縦断分布



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図8. 10 主な河川横断工作物



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図8. 11 荒川【主要魚介類の確認状況】

表 8. 2 荒川魚介類の確認状況（既存調査結果）（1）

項目・分類・科・種名	調査地点								
	1 葛西橋 周辺	2 小松 辺川橋 周辺	3 木根 辺川橋 周辺	4 東部 鉄道橋 周辺	5 西新 井橋 周辺	6 江北 橋 周辺	7 芝川 水門 上	8 戸田 橋 周辺	9 笹目 橋 周辺
	調査時期								
	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)	平成15年度 (6-7-8-11 月)
生物A	魚類	サケ科	ヤマメ						
		サケ科	イワナ						
		サケ科	ニジマス						
		カンガ科	カンガ						
その他	魚類	キュウリウオ科	アユ						
		キュウリウオ科	ワカサギ						
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ						
		コイ科	コイ	○	○	○	○	○	○
		コイ科	フナ類(ゲンゴロウブナ)						
		コイ科	フナ類(ギンブナ)						
		コイ科	フナ類(ギンブナ)						
		コイ科	フナ類(Garassius属の數種)						
		コイ科	オイカフ						
		コイ科	ウグイ						
		ドジョウ科	ドジョウ						
		ナマズ科	ナマズ						
		ボラ科	ボラ	○	○	○	○	○	○
		ハゼ科	ヨシノボリ類(オオヨシノボリ)						
		ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)						
		ハゼ科	ヨシノボリ(Rhinogobius)属の一種						
甲殻類		テナガエビ科	テナガエビ	○	○	○	○	○	○
		テナガエビ科	スジエビ						
		イワガニ科	モクズガニ						
	貝類	シジミ科	ヤマトシジミ	○	○	○	○	○	○
		シジミ科	マシジミ						
その他	魚類	ニシン科	サツバ	○	○	○	○	○	○
		コノシロ科	コノシロ	○	○	○	○	○	○
		カタクチイワシ科	カタクチイワシ	○	○	○	○	○	○
		コイ科	タイリクバラタナゴ						
		コイ科	ハクレン						
		コイ科	コクレン		○				
		コイ科	ハス						
		コイ科	カワムツ						
		コイ科	アブラハヤ						
		コイ科	ウグイ(Tribolodon)属の一種				○		
		コイ科	モツゴ					○	○
		コイ科	ビロヒガイ						
		コイ科	ムギツク						
		コイ科	タモロコ						
		コイ科	カマツカ						
		コイ科	ニゴイ						
		コイ科	イトモロコ					○	
		コイ科	スゴモロコ					○	○
		ドジョウ科	シマドジョウ						
		ナマズ科	ギバチ						
		ギギ科	ギギ					○	
		カタヤシ科	カタヤシ						
		サヨリ科	クルマサヨリ						
		シマイサキ科	コトヒキ		○	○			
		シマイサキ科	シマイサキ						
		コチ科	コチ(マゴチ)	○	○	○	○	○	○
		スズキ科	スズキ	○	○	○	○	○	○
		サンフィッシュ科	ブルーギル					○	○
		サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)					○	○
		ヒイラギ科	ヒイラギ						
		ハゼ科	スミウキゴリ						
		ハゼ科	ウキゴリ属(Gymnogobius属の一種)						
		ハゼ科	マハゼ	○	○	○	○	○	○
		ハゼ科	ヒナハゼ						
		ハゼ科	シモフリマハゼ	○	○	○	○	○	○
		ハゼ科	Rhinogobius属の一種						
		ハゼ科	スマチチブ						
		ハゼ科	チチブ(Tridentiger)属の一種	○	○	○	○	○	○
		ハゼ科	ハゼ科の一種	○	○	○	○	○	○
		タイワンドジョウ科	カムルチー						
		クルマエビ科	クルマエビ科の一種						
甲殻類		サクラエビ科	アキアミ						
		テナガエビ科	ユビナガスジエビ(フトユビスジエビ)	○	○	○	○	○	○
		テナガエビ科	シラタエビ	○	○	○	○	○	○
		テッポウエビ科	Alpheus属の一種						
		テッポウエビ科	スジエビ(Palaemon)属の一種	○	○	○	○	○	○
		エビジャコ科	エビジャコ	○	○	○	○	○	○
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○	○	○	○	○	○
		イワガニ科	カサガニ	○	○	○	○	○	○
		イワガニ科	クロペンケイガニ	○	○	○	○	○	○
		イワガニ科	ペンケイガニ	○	○	○	○	○	○
		イワガニ科	アシガニ						
		イワガニ科	イソガニ(Acmaeopleura)属の一種						
		コブシガニ科	マメコブシガニ	○	○	○	○	○	○
		スナガニ科	ヤマオサガニ	○	○	○	○	○	○
		ワタリガニ科	アサギガニ	○	○	○	○	○	○
		ワカウツボ科	カワグチツボ	○	○	○	○	○	○
		カワサンショウガイ科	カワサンショウガイ	○	○	○	○	○	○
		サカマキガイ科	サカマキガイ						
		イガイ科	ムラサキイガイ	○	○	○	○	○	○
		イガイ科	カサガイ						
		イガイ科	ホトケイガイ	○	○	○	○	○	○
		イガイ科	ヨウロウガイ	○	○	○	○	○	○
		イタボガキ科	マガキ						
		バカガイ科	シオフキガイ	○	○	○	○	○	○
		マルスターガイ科	アザリ	○	○	○	○	○	○
		オオノガイ科	オオノガイ	○	○	○	○	○	○

※分類体系は山本カヲ一(監)日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学研研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出典:調査機関・名称・年度

国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成15年度(6-7-8-11月)調査

国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成13年度(6-10月)調査(二瀬ダム)

埼玉県新河岸川総合治水事務所、河川改修調査工事荒川(魚類調査)、平成15年度(7-10月)

埼玉県水産試験場、埼玉県の生息魚類の分布について、平成6年度

表 8. 2 荒川魚介類の確認状況（既存調査結果）（2）

調査地点			10	11	12	13	14	15	16	17	18	
			J 線 鉄 橋 野	羽 根 倉 橋 下	羽 根 倉 橋 上	治 水 橋	御 成 橋	久 下 橋	熊 谷 大 橋	荒 川 橋 梁	長 瀨 町 内	
項目・分類・科・種名			調査時期									
			平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成15年度 (7-10月)	平成16年度
生物A	魚類	サケ科	ヤマメ									○
		サケ科	イワナ									
		サケ科	ニジマス									
その他	魚類	カジカ科	カジカ									○
		キュウリウオ科	アユ						○		○	○
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ									○
		コイ科	コイ					○	○	○	○	○
		コイ科	フナ類(ゲンゴロウブナ)					○	○	○	○	○
甲殻類	魚類	コイ科	フナ類(キンブナ)		○		○	○	○	○	○	○
		コイ科	フナ類(キンブナ)									○
		コイ科	フナ類(Carassius属の数種)		○			○	○	○	○	○
甲殻類	魚類	コイ科	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		コイ科	ウグイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ドジョウ科	ドジョウ		○	○	○	○	○	○	○	○
甲殻類	魚類	ナマズ科	ナマズ									○
		ボラ科	ボラ	○								
		ハゼ科	ヨシノボリ類(オオヨシノボリ)				○					
甲殻類	魚類	ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)		○	○	○	○	○	○	○	
		ハゼ科	ヨシノボリ(Rhinogobius)属の一種									○
		テナガエビ科	テナガエビ									
甲殻類	魚類	テナガエビ科	スジエビ									
		イワガニ科	モクズガニ									
		シジミ科	ヤマトシジミ									
その他	魚類	シジミ科	マシジミ									
		ニシン科	サツハ									
		コノシロ科	コノシロ									
その他	魚類	カタクチイワシ科	カタクチイワシ									
		コイ科	タイリクバラタナゴ				○			○	○	○
		コイ科	ハクレン	○								
その他	魚類	コイ科	コクレン									
		コイ科	ハス	○		○						
		コイ科	カウムツ				○					
その他	魚類	コイ科	アブラハヤ					○	○	○	○	○
		コイ科	ウグイ(Tribolodon)属の一種									
		コイ科	モツゴ		○	○	○	○	○	○	○	○
その他	魚類	コイ科	ビウビガイ		○							
		コイ科	ムギツク				○	○	○	○	○	○
		コイ科	タモロコ			○	○	○	○	○	○	○
その他	魚類	コイ科	カマツカ									○
		コイ科	ニゴイ	○		○	○	○	○	○	○	○
		コイ科	イトモロコ									○
その他	魚類	コイ科	スコモロコ	○		○						
		ドジョウ科	シマドジョウ									
		ナマズ科	ギバチ									
その他	魚類	ギギ科	ギギ									
		カタヤシ科	カタヤシ					○	○	○		
		サヨリ科	クルマサヨリ									
その他	魚類	シマイサキ科	コトヒキ									
		シマイサキ科	シマイサキ									
		コナギ科	コナギ(マコナギ)									
その他	魚類	スズキ科	スズキ	○								
		サンフィッシュ科	ブルーギル				○					
		サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)			○					○	○
その他	魚類	ヒイラギ科	ヒイラギ									
		ハゼ科	スミウキゴリ									
		ハゼ科	ウキゴリ属(Gymnogobius属の一種)									
その他	魚類	ハゼ科	マハゼ	○								
		ハゼ科	ヒナハゼ									
		ハゼ科	シモリシマハゼ									
その他	魚類	ハゼ科	Rhinogobius属の一種				○					
		ハゼ科	スマチチフ	○	○	○	○	○				
		ハゼ科	チチフ(Tridentiger)属の一種									
その他	魚類	ハゼ科	ハゼ科の一種									
		タイワンドジョウ科	カムルチー									
		クルマエビ科	クルマエビ科の一種							○		
甲殻類	魚類	サクラエビ科	アキアミ									
		テナガエビ科	ユビナガスジエビ(フトユビスジエビ)									
		テナガエビ科	シラタエビ									
甲殻類	魚類	テッポウエビ科	Alpheus属の一種									
		テッポウエビ科	スジエビ(Palaemon)属の一種									
		エビジャコ科	エビジャコ									
甲殻類	魚類	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ									
		イワガニ科	クワザリガニ									
		イワガニ科	クロベンケイガニ									
甲殻類	魚類	イワガニ科	ベンケイガニ									
		イワガニ科	アシハラガニ									
		イワガニ科	イソガニ(Acmaeopleura)属の一種									
甲殻類	魚類	ヨブシガニ科	マメコブシガニ									
		スナガニ科	ヤマトオサガニ									
		ワタリガニ科	チツウカイシドリガニ									
甲殻類	魚類	ワカウツボ科	カワグチツボ									
		カワザンショウガイ科	カワザンショウガイ									
		サカマキガイ科	サカマキガイ									
甲殻類	魚類	イガイ科	ムラサキイガイ									
		イガイ科	偽イガイ									
		イガイ科	ホトキスガイ									
甲殻類	魚類	イガイ科	コウエンカワハリガイ									
		イタボガキ科	マガキ									
		バカガイ科	シオフキガイ									
甲殻類	魚類	マルスターガイ科	アサギ									
		オオノガイ科	オオノガイ									

※分類体系は山溪カヲ一図鑑日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学研研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出典:調査機関・名称・年度

国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成15年度(6・7-8・11月)調査

国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成13年度(6-10月)調査(二瀬ダム)

埼玉県新河岸川総合治水事務所、河川改修調査工事荒川(魚類調査)、平成15年度(7-10月)

埼玉県水産試験場、埼玉県の生息魚類の分布について、平成6年度

表 8. 2 荒川魚介類の確認状況（既存調査結果）（3）

項目・分類・科・種名	調査地点		19	20	21	22	23	24	25	26	27	
	調査時期		皆野町内	秩父市内	荒川村内	大滝村内	① 二瀬ダム (ダム湖内)	② 二瀬ダム (ダム湖内)	③ 二瀬ダム (ダム湖内)	(大洞川流 入部)	二瀬ダム (荒川流入部)	二瀬ダム (荒川流入部)
			平成6年度	平成6年度	平成6年度	平成6年度	平成13年度 (6・10月)	平成13年度 (6・10月)	平成13年度 (6・10月)	平成13年度 (6・10月)	平成13年度 (6・10月)	平成13年度 (6・10月)
生物A	魚類	サケ科	サケ科	イワナ								
		サケ科	ニジマス									
		カジカ科	カジカ									
その他	魚類	キュウリウオ科	アユ									
		キュウリウオ科	ワカサギ									
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ									
		コイ科	コイ									
		コイ科	フナ類(ゲンゴロウブナ)									
甲殻類	魚類	コイ科	フナ類(キンブナ)									
		コイ科	フナ類(キンブナ)									
		コイ科	フナ類(Carassius属の數種)									
甲殻類	魚類	コイ科	オイカワ									
		コイ科	ウグイ									
		ドジョウ科	ドジョウ									
甲殻類	魚類	ナマズ科	ナマズ									
		ボラ科	ボラ									
		ハゼ科	ヨシノボリ類(オオヨシノボリ)									
甲殻類	魚類	ハゼ科	ヨシノボリ類(トウヨシノボリ)									
		ハゼ科	ヨシノボリ(Rhinogobius)属の一種									
		テナガエビ科	テナガエビ									
甲殻類	魚類	テナガエビ科	スジエビ									
		イワガニ科	モクズガニ									
		シジミ科	ヤマシジミ									
その他	魚類	シジミ科	マシジミ									
		ニシン科	サッパ									
		コシロ科	コシロ									
その他	魚類	カタクチイワシ科	カタクチイワシ									
		コイ科	タイリクバラタナゴ									
		コイ科	ハクレン									
その他	魚類	コイ科	コクレン									
		コイ科	ハス									
		コイ科	カワムツ									
その他	魚類	コイ科	アブラハヤ									
		コイ科	ウグイ(Tribolodon)属の一種									
		コイ科	モツゴ									
その他	魚類	コイ科	ビウヒガイ									
		コイ科	ムギツク									
		コイ科	タモロコ									
その他	魚類	コイ科	カマツカ									
		コイ科	ニゴイ									
		コイ科	イトモロコ									
その他	魚類	コイ科	スコモロコ									
		ドジョウ科	シマドジョウ									
		ナマズ科	ギバチ									
その他	魚類	ギギ科	ギギ									
		カタヤシ科	カタヤシ									
		サヨリ科	クルメサヨリ									
その他	魚類	シマイサキ科	コトヒキ									
		シマイサキ科	シマイサキ									
		コチ科	コチ(マゴチ)									
その他	魚類	スズキ科	スズキ									
		サンフィッシュ科	ブルーギル									
		サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)									
その他	魚類	ヒイラギ科	ヒイラギ									
		ハゼ科	スミウキゴリ									
		ハゼ科	ウキゴリ属(Gymnogobius属の一種)									
その他	魚類	ハゼ科	マハゼ									
		ハゼ科	ヒナハゼ									
		ハゼ科	シモリシマハゼ									
その他	魚類	ハゼ科	Rhinogobius属の一種									
		ハゼ科	ヌマチチブ									
		ハゼ科	チチブ(Tridentiger)属の一種									
その他	魚類	ハゼ科	ハゼ科の一種									
		タイランドドジョウ科	カムルチー									
		クルマエビ科	クルマエビ科の一種									
甲殻類	魚類	サクラエビ科	アキアミ									
		テナガエビ科	ユビナガエビ(フトユビナガエビ)									
		テナガエビ科	シラタエビ									
甲殻類	魚類	テッポウエビ科	Alpheus属の一種									
		テッポウエビ科	スジエビ(Palaemon)属の一種									
		エビジャコ科	エビジャコ									
甲殻類	魚類	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ									
		イワガニ科	クワザイガニ									
		イワガニ科	クロベンケイガニ									
甲殻類	魚類	イワガニ科	ベンケイガニ									
		イワガニ科	アシハカニ									
		イワガニ科	インガニ(Acmaeopleura)属の一種									
甲殻類	魚類	コブシガニ科	マメコブシガニ									
		スナガニ科	ヤマトサガニ									
		ワタリガニ科	アサヒカニ									
甲殻類	魚類	ワカウツボ科	ワカウツボ									
		カワザンショウガイ科	カワザンショウガイ									
		サカマキガイ科	サカマキガイ									
甲殻類	魚類	イガイ科	ムラサキイガイ									
		イガイ科	ウツミイガイ									
		イガイ科	ヒトキイガイ									
甲殻類	魚類	イガイ科	コウゴンカワヒナガイ									
		イタボガキ科	マガキ									
		ハカガイ科	シオフキガイ									
甲殻類	魚類	マルスダレガイ科	アサギ									
		オノガイ科	オノガイ									

※分類体系は山梨県水産試験場・国産日本の淡水魚(山と溪谷社,1989)・学研生物図鑑魚類(学習研究社,1983)・新日本動物図鑑(中)(北隆館,1965)等を参考とした。

データの出典:調査機関・名称・年度

国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成15年度(6・7・8・11月)調査

国土交通省、河川水辺の国勢調査、平成13年度(6・10月)調査(二瀬ダム)

埼玉県新河岸川総合治水事務所、河川改修調査工事荒川(魚類調査)、平成15年度(7・10月)

埼玉県水産試験場、埼玉県の生息魚類の分布について、平成6年度

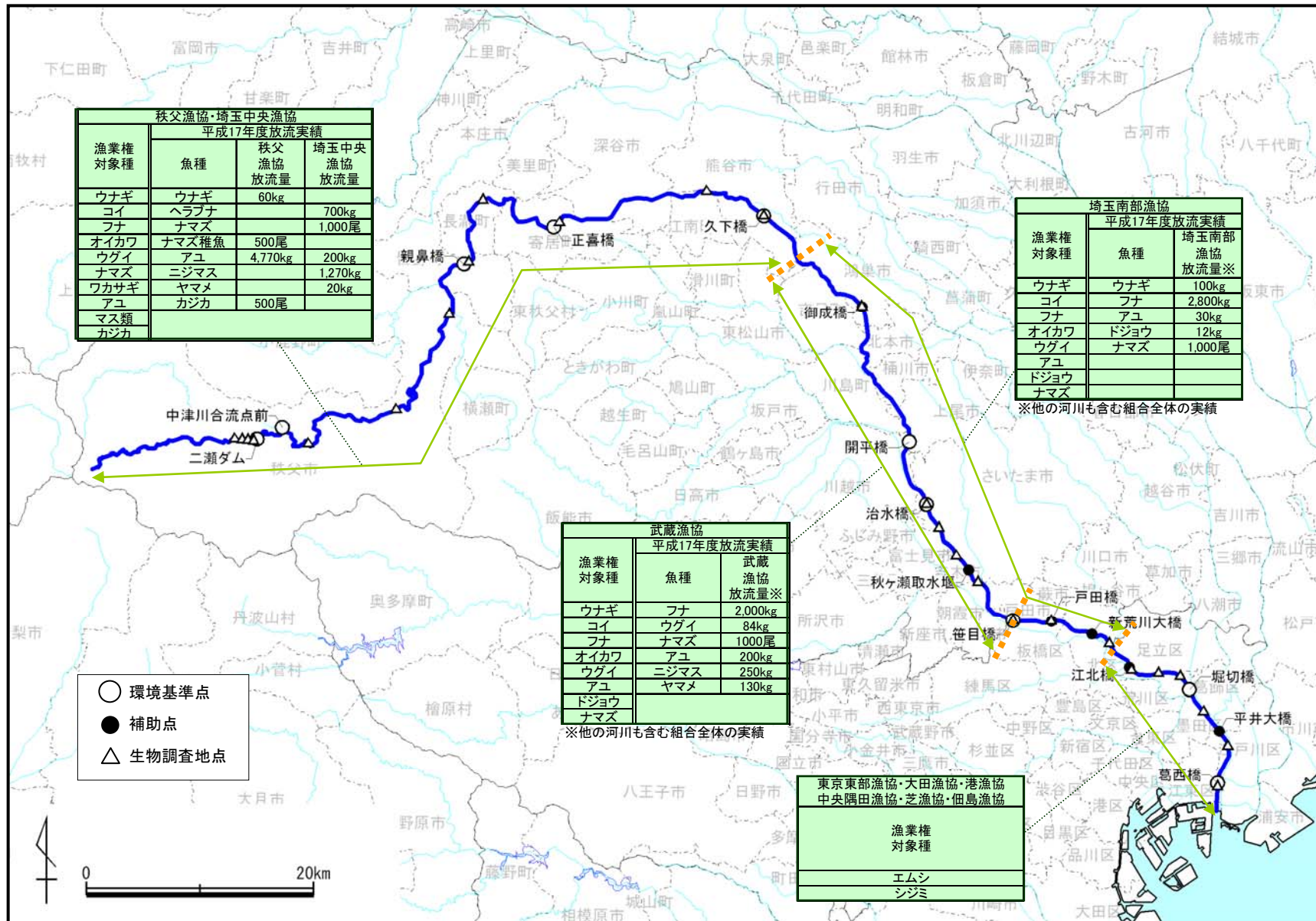


図8. 12 荒川【漁業権設定・魚類等放流状況】

表 8. 3 荒川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理

	上流	中流	下流
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、イワナ、ヤマメ、アユ、カジカ、ウグイ、オイカワ、カマツカ、シマドジョウ、ニゴイ、コイ、ウナギ、アブラハヤ、ヨシノボリ、ナマズ、ギギ等があげられる。 イワナは秩父市より上流、ヤマメ・アユは玉淀ダムより上流、カジカは長瀬町より上流に生息している。 コイ・フナ類は秩父市内より上流では生息していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類として、アユ、ウグイ、オイカワ、コイ、フナ類等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は秩父市内より下流では生息していない。 コイ・フナ類・ウグイ・オイカワ等は秩父市内から埼玉、東京の都県境まで生息している。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的及び特徴的な魚介類としてコイ、フナ類、ナマズ、ウナギ、アユ等があげられる。 イワナ・ヤマメ類は生息していない。 コイ・フナ類は下流の全域に生息している。
産卵場・仔稚魚の成育場	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場所は年々河川も変化するので把握困難であるが、イワナ・ヤマメ等は上流域の砂利場で産卵している。 (アユの産卵場) <ul style="list-style-type: none"> 久下橋周辺と玉淀ダムの上流ではアユの産卵を確認している。久下橋から玉淀ダムの間では産卵に適した砂利場がみられるので産卵している可能性はある。 (ウグイの産卵場) <ul style="list-style-type: none"> 管轄域内の本流に10箇所程度ウグイの人工産卵床を造成し、一部はそのまま産卵場所として期間中保全し、一部では卵を採取・人工孵化させて稚魚放流しているが、具体的な自然産卵場所は把握していない。 荒川本川では、高砂橋下流～柳大橋上流までで8箇所の人口産卵床を造成している。そのうち6箇所は、漁を行うための産卵床であり、和銅大橋とベルトコンベアー橋の2箇所は純粋な産卵場の造成である。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉淀ダムから正喜橋まではウグイ・アユの産卵場として保護水面指定されている。 具体的な場所は年々河川も変化するので把握困難であるが、コイ・フナ類は中下流域の抽水植物帯、アユ・ウグイ等は中流域の砂利場で産卵している。 ウグイは保護水面に指定された区域で産卵している。 	<ul style="list-style-type: none"> コイ・フナ類は中下流域の抽水植物帯で産卵している。
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ヤマメ、アユ、ウナギ、カジカ、ナマズ、ワカサギを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ヤマメ、ニジマス、ナマズ、アユ、ヘラブナを放流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ウナギ、ナマズ、アユ、ドジョウ、ヘラブナを放流している。
河川環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> 二瀬ダム・玉淀ダムには魚道が無いため、移動する魚類に影響を与えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 六堰と明戸堰(サイフォン)がある。明戸堰には魚道が無いため、移動する魚類に影響を与えている。 	

※埼玉県農林総合研究センター、東京都環境局、秩父漁協、埼玉中央漁協、埼玉南部漁協への平成 17,19 年度ヒアリング